

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.96

2007/11/22

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 保全作業進み湿原復元予想以上に伸展！！

復元作業で広々となってきた北部湿原 (07/11/20)



山門老人会による北部湿原の刈り払い作業 (07/10/31)



刈り払い後の北部湿原灌木帯 (07/11/21)

2003 年春から取り組みだした北部湿原の復元作業は、2 年間の経過と 2005・2006 年実施した中央湿原と北部湿原の間の復元作業の成果を踏まえ、今年も淡海森林クラブ・山門老人会のみなさまの協力を得て実施しました。その成果の最終結果は、今後の経過を見届ける必要があるものの、現段階では「間違いなく湿原は甦ってきた」ということです。灌木帯の復元は、予想以上の重労働とその後の整理に多大の人手を必要とします。が見渡す限りの灌木帯と化していた北部湿原が未完とはいえトップの画像のように甦ってくると、作業のしんどさが吹っ飛んでしまいます。今年度 4 月から実施し始めた「保全活動の日」もこうした作業の伸展に大きく寄与しています。過日子どもたちの観察会時に会員がこの復元作業の意義を説明したとき 5 年生の子どもが「自然も人間と同じですね。手を掛けてやれば良くなるんですね」と発言してびっくりしたと漏らしておられましたが、まさしくその通りです。今秋は、過去最高となる訪問者を迎えています。再生されていく湿原とこの森の素晴らしさに感嘆の言葉が続いています。またこの活動に多くのみなさんのカンパも頂戴出来ていることは、本会の活動の共感を得ている証でもあると思います。



中央～北部湿原間の復元状態(07/11/21)



北部湿原池塘脇の復元状態(07/11/21)

北部湿原灌木帯の刈り払い後の状態は、11月の保全活動の日に一部を整理しましたが未だ未整理部分が残っています。この作業は12月15日の保全活動の日に実施予定です。この整理が終われば、更に復元の効果を実感できるものと期待されます。



ピークのブナの巨樹と初雪

## 半月早い初雪

11月18日夜から19日にかけて、紅葉たけなわの森に初雪が降った。昨年の初雪は12月3日。積雪は山頂で3cm。天気は徐々によりくなり午後は晴れ。こんな中も訪問者が絶えないのが今年の特徴。ガイド役のみなさんお疲れ様でした。訪問者は、積雪の中の紅葉に大感激。この前日も雪の降る中「ブナの森コース」を踏破したグループもありました。

11月7日は、森会員と共に「ブナの森コース」の樹名調査を行いました。

オオバクロモジ、ムラサキマユミ、ウラジロノキ、ダンコウバイ等々認識していなかったものが多く見られました。季節を変えて何回かの調査の必要性を感じたものです。特に北部湿原でウメモドキが見つかったのには驚きました。これまですべてミヤマウメモドキと詳細に見直すことが無かったのですが、ウ



ミヤマウメモドキ(右)とウメモドキ(07/11/08)

メモドキが結構何本もあることが判明しました。また湿原の保全作業中に32個もの果実を付けたツルリンドウにも遭遇できました。まだまだ「山門水源の森」の奥は深いと感じる日々が続いています。



PHOTO BY AZAI

初雪の「守護岩」で記念写真(07/11/19)

る中「ブナの森コース」を踏破したグループ



樹木調査でブナの巨木と(07/11/07)



ツルリンドウ(07/11/10)